



かわさき

水辺の親しみやすさ調査

マニュアル

【上級・指導者編】

川崎市

はじめに

みなさんは、普段^{ふだん}の生活で水辺と関わることはありますか？

川崎市にはたくさんの川が流れています。昔、川の水は田んぼや畑、炊事^{すいじ}などの水として使われ、人々の日々の生活を支えていました。

今は都市化が進み、川は昔のように利用されることはありませんが、自然を身近に感じることでできる大切な場所の一つになっています。

この「水辺の親しみやすさ調査」は、みなさんが身近にある川を実際に訪れ、水辺に親しんで欲しいとの願いから作られたものです。また、子ども達には、水辺に親しむことで環境^{かんきょう}の大切さを知ってもらい、環境を守る気持ちを育んでもらいたいと考えています。

調査した場所が、気持ちの良い場所であるか、遊べる場所であるかを市に教えてください。ホームページなどで公開し、川崎市にはどんな水辺があるのかを市民のみなさんと共有することで、みなさんが水辺に親しむ機会を広げていきます。

この調査は小学校高学年でできるくらいの難しさ^{むずか}としていますが、低学年でも大人の助けがあればできる内容です。

また、市内の水辺の情報を共有することができる手段として、大人にとっても有用な調査となっています。

学校の授業や夏休みの自由研究、市民活動などにぜひご活用ください。

実際に川に足を運び、そこにある水や植物、生きものなどに目を向け、水辺について考えるきっかけとなれば幸いです。

「かわさき 水辺の親しみやすさ調査マニュアル 【上級・指導者編】」は、【調査者編】よりもやや難しい内容となっており、環境^{くわ}に詳しい人や、調査を企画・指導^{きかく}する人を対象としています。

そのため、本マニュアルの各所にはコラムを設け、調査をきっかけに、水環境^{みずかんきょう}についてさらに知ってもらえるようにしています。

指導者の方は、子どもたちに教えてあげてください。

また、調査の際に、子ども達に「何を意識してほしいか」といった指導者向けの記載をしています。

[目次]

はじめに	1
------------	---

1 川崎市の「川」はどんな川？

1.1. 川の歴史	4
1.2. 現在の川の様子	6

2 水辺の親しみやすさ調査について

2.1. 調査の内容	7
2.2. 調査場所の事前確認 <small>かくにん</small>	7
2.3. 調査項目のねらい <small>こうもく</small>	8

3 調査の準備

3.1. 調査の計画	9
3.2. 持ち物	9
3.3. 服装 <small>ふくそう</small>	9
3.4. 調査時の注意点	10

4 調査の実施 じっし

4.1. 利用のしやすさの調査	11
4.2. 快適さの調査	16

5 調査が終わったら

5.1. 調査結果の評価	22
5.2. 調査結果をみんなに知らせる	24

6 専門的な せんもんてき (難しい) むずか 評価

6.1. 水の生きものの視点	25
6.2. 水質の視点 (指標: ふん便性大腸菌群数 <small>べんせいだいちょうきんぐんすう</small>)	27

7 水辺をもっと親しみやすくするために

- ・ 調査結果記録ノート
- ・ 総合評価ノート

1 川崎市の「川」はどんな川？

みなさんの暮らす川崎市には大きな川から住宅地の中の水路のような川まで、さまざまな川が流れています。みなさんが住んでいるところの近くにはどんな川が流れているのでしょうか。



【市内の河川：このマニュアルでは、川崎市の川である以下の川を対象としています。】

- ・多摩川水系：三沢川、平瀬川、二ヶ領本川、山下川、五反田川、二ヶ領用水
- ・鶴見川水系：麻生川、片平川、真福寺川、早野川、矢上川、有馬川、江川、渋川

【コラム：川のはじまり】

川崎市には川のはじまり（水源地）があることを知っていますか？川崎市を流れる三沢川の水源地の一つに、麻生区の「黒川よこみね緑地」（写真）があります。川は、山に降った雨が地表を流れたり、地面の中にいったんしみこんでから湧き出したりした小さな流れが、だんだん集まって大きくなったものです。川崎市のような大きな都市では、住宅や舗装された道路が多いため地面に雨がしみこみにくく、緑地などの保水力も大きくないため、晴れた日の川の水が少なくなっています。



このため、市では水や自然を守るために、この水源地のまわりを「黒川よこみね緑地」として整備しました。川を守るためには、川のはじまりである森や林を守ることが大切なのです。そしてそれは、生きものをふくめた自然全体を守ることに繋がっています。

1.1 川の歴史

川崎市の川は、昔は農業や生活のための水として利用されていたり、子どもの遊ぶ場所になったりと、日々の生活において、とても身近な場所でした。



【田植えの様子（1940）】



【水浴する子どもたち
（昭和20年代）】※



【野菜を洗う様子（1951）】※
※「高津区ふるさとアーカイブ」より引用

しかし、時代が進んで工業化や都市化が進むと、工場や家庭から出る汚れた水の量が増えたり、使い捨ての便利な物が増えることで川にごみ^{よご}が捨てられたりして、川の水はとても汚くなりました。



※「高津区ふるさとアーカイブ」より引用
【洗剤で泡立つ川（1978）】

現在では、工場や家庭から出る汚れた水は下水道や浄化施設^{じょうかしせつ}できれいにされるようになったので、川の水もきれいになりました。一方で、水害から家を守るために岸辺がコンクリートで整備されたり、土地を広く使うために川が暗渠^{あんきよ}（地下水路）になり、川の自然が少なくなっていました。

こうして川は近づきにくい場所となり、昔のように人々が日常的に川に触れ合うことはなくなってしまいました。

現在、川崎市では、川の周りの環境を考え、人々が川に親しみを感じることができるよう「親水整備」を進めるなどして、人々が川に触れ合う機会^{そうしゅつ}を創出しています。



【親水整備された場所】

【コラム：川の通り道の変化】

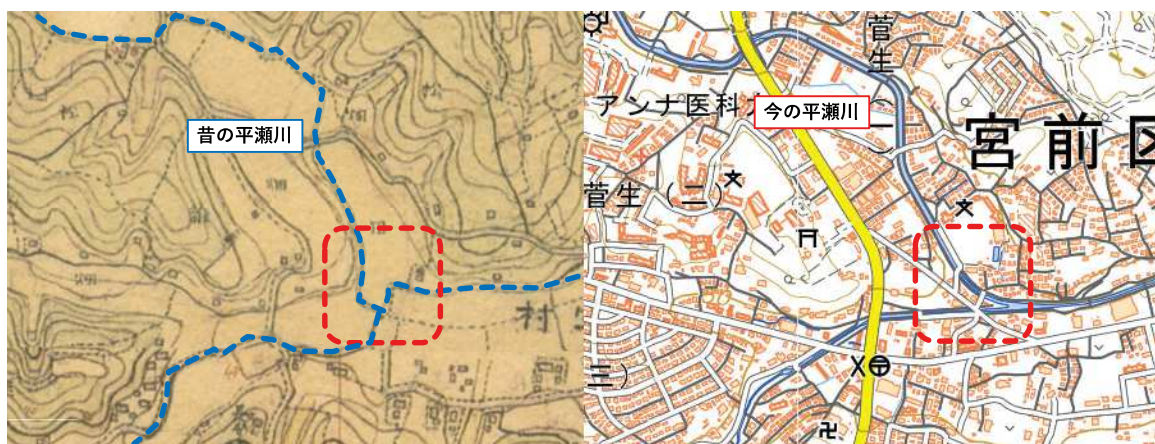
みなさんのおじいちゃんやおばあちゃんが川を遊び場としていた頃よりもっと昔の川の姿と、今の川の姿はどうちがうのでしょうか。

昔から変わらず遊べる川もあれば、川はばが細くなった川、水際に近付けなくなった川、遊ぶことが出来なくなった川、水がなくなってしまった川など、違いはいろいろです。

例えば、宮前区菅生一丁目付近の平瀬川の昔と今を見比べてみましょう。下の図は1880年代と現在の同じ場所の地図です。昔の平瀬川は、図の上からの流れが、下からの流れにコの字状に合流しています（赤点線の中）が、現在は滑らかに合流しています。

これは、大雨のとき合流地点で水があふれないように、川の流れを変えたのです。

このように、みんなが安心して暮らせるよう、川の向きを変えたり、川幅を広げたり、地面の下を通したりするような工事が行われたため、川の姿は昔と今で変わっています。



平瀬川の昔と今（左：1880年代、右：現在）

出典：「歴史的農業環境閲覧システム」（農研機構農業環境変動研究センター）

<https://habs.rad.naro.go.jp/> より作成

1.2. 現在の川の様子

(1) 水辺の親しみやすさ

川崎市では親水整備（川のそばに歩きやすい通路や、水際まで下りられるような階段・護岸が造られ、水と親しめるような整備）が進んでおり、川のそばを散歩したり、魚などの生きものを観察したりすることができます。二ヶ領用水などは整備が完了し、渋川、平瀬川は現在も整備が進められています。



【親水整備前後の二ヶ領用水の様子（左：整備前、右：整備後）】

(2) 水辺の生きもの

川の水は、数十年前と比べるとかなりきれいになっているため、色々な場所でアユやドジョウなどが増え、水のきれいな川にすむビリンゴや、湧水があるところにかすめないホトケドジョウも見つけることができるようになっています。

魚以外には、海で生まれ川で育つモクズガニや、ホタルのえさになるカワニナ、川にすむエビであるヌマエビなどが見つけられます。

一方で、元々その場所にすんでいた生きものを食べてしまうため問題となっている、外来種のオオクチバスやアメリカザリガニや、本来はペットであるヒメダカやグッピーなども見つかっています。



【アユが確認された三沢川】



【ビリンゴ（きれいな川にすむ魚）】



【アユ】

2 水辺の親しみやすさ調査について

この調査は、市民のみなさんに、市内の川に「散歩したい、遊びたい」と思えるような場所があることを知ってもらい、水辺に親んでもらうことを目的としています。近所の川に実際に足を運んで、いいなと思える場所を見つけて、家族や友達に教えてあげましょう。

2.1. 調査の内容

調査は「利用のしやすさの調査」と「快適さの調査」の二つの項目があります。

「利用のしやすさの調査」はその場所の利便性（歩道や階段の有無など）を調べる項目で、「快適さの調査」はその場所の印象（水の透明さやごみの量など）を調べる項目です。

現地で調査をした後に、「利用のしやすさの調査」と「快適さの調査」の得点を集計して、「総合評価」を行います。総合評価の結果は、「(川沿い / 岸辺 / 水際)を利用できる / 気持ちよく利用できる / とても気持ちよく利用できる」という言い方で表現します。

2.2. 調査場所の事前確認

(1) 調査地点の選定

近所に川があれば、まずはそこで調査してみてください。

また、市が基準地点として設定している地点（P.29に掲載）が17地点あります。慣れてきたら色々な場所で調査し、比較してみてください。なお、季節によって結果が変わることがあるので、時期を変えて調査してみるのも良いでしょう。

(2) 調査範囲の確認

本調査では、市内を流れる都市河川（街中にある規模の大きい川）を対象としています。範囲は、調査開始した場所から目が届く範囲（20m四方程度）を目安としてください。

(3) 安全性の確認

大人数の子どもを連れて調査する場合には、実際に調査をする前に、指導者の方が現地を確認し、想定している調査ができるか、危険な場所、危険なものがないかなどを確認してください。

2.3. 調査項目こうもくのねらい

調査する方に現地で感じたり、考えてもらいたい内容です。

指導する方は、調査に関連付けて、子ども達が水環境みずかんきょうについて考えるためのきっかけになるよう、問いかけ等をしてあげてください。

(1) 利用のしやすさの調査

- ・調査した水辺がどのように利用できるか、どんなふうを整備されていれば水と親しめるかについてイメージしてもらおう。
- ・川にはどんな危険きけん（転倒てんとうする、とがったものを踏むふ、流される、溺れるおぼ、ハチ等の虫にさされる等）があるか知り、川で安全に遊ぶためには、どこをチェックすべきか考えてもらおう。

(2) 快適さの調査

- ・実際に川をみることで、身近な水辺について知り、その場所がどういう状態なら快適かを考えるきっかけとする。
- ・川の環境の良し悪しを判断し、なぜそうなっているのか、環境が悪い場合にはどうしたらよくなるのかを考えてもらおう。
- ・水がくさかったり、にごったりするのはなぜか考えるきっかけとしてもらおう。（台所やトイレからの排水はいすいは、下水道しよりにじょうを通して下水処理場に集まる。その先は?）
- ・排水やごみの行き着く先を考えることで、ポイ捨てすしない、ジュースやみそ汁しるは飲み切り、流し等に飲み残しはいりよを流さないなど環境に配慮した行動を日常で心掛けてもらおう。
- ・ごみはどこからきてどこへ流れていくのか考えてもらおう。（川のごみは、直接川に捨てられるものだけではなく、路上にあるごみや汚水おすい等も川に集まり、やがて海へ流れていく。その先は?）

3 調査の準備

3.1. 調査の計画

調査の前に、必要なものは何か考えましょう。

天気予報で天気（大雨がふらないか、気温が高すぎない・低すぎないか、風は強くないか）を確認し、安全に調査できる日を選びましょう。

子どもだけで調査を行う場合は、大人に相談してからいきましょう。

3.2. 持ち物

調査に必要なものは、調査する場所、調査の内容によって変わります。下の表をみて必要なものを準備しましょう。

必要なもの	筆記用具
	バインダーや下敷き
	調査結果記録ノート
	マニュアル（この冊子）
	水をくむもの（紙コップ、ビーカー、バケツなど）
	20cm以上の長さを測れるもの（メジャーなど）
	時間が測れるもの（時計、ストップウォッチなど）
必要に応じてもっていくもの	飲み物
	タオル
	虫よけスプレー
あると便利なもの	魚や虫の図鑑（動物・植物を調べる場合）
	虫取り網、魚取り網（動物・植物を調べる場合）
	双眼鏡

3.3. 服装

動きやすい服装で調査しましょう。草むらに入る場合は、ハチや草の葉っぱなどから体を守るため、長そで・長ズボンが良いでしょう。ただし夏の暑い日には熱中症にも十分気を付けてください。

ぼうし	つばのあるもの（春、夏、秋。熱中症対策のため）
手袋	軍手
シャツ	動きやすく汚れたり、ぬれてもいいシャツ
ズボン	動きやすく汚れてもいいズボン
靴	動きやすくぬれてもいい靴
	ウォーターシューズ（川の水に足をつけるとき） ※ビーチサンダルだと脱げてしまいます。長靴は中に水が入ると重くなって危険です。

3.4. 調査時の注意点

- ・ 川の水が急ににごったり、草や木などが流れてきたり、水の流れ方が変わった場合はすぐに川からはなれましょう。突然水の量がふえ、あふれる場合があります。
- ・ 天気の変化に注意しましょう。（雲が急に出てきたり、雨が降りそうになっていないか気をつけましょう。川の水が急にふえることがあります。）
- ・ 水辺はすべりやすいので、足元に注意しましょう。
- ・ 流れが緩やかでも、深さがひざの上くらいまでであると動けなくなります。また、普通の長靴は水が入りやすく、ぬげたり、足をとられたりして大変危険です。川に入るときは、足首より浅い場所までにしましょう。
- ・ 川底は実際よりも浅く見えるので、水に足をつけるときは気を付けましょう。
- ・ 水深が浅くても、流れが速いと転んだり流されたりします。そのような場所には絶対に入らないようにしましょう。
- ・ 川底は突然深くなる場所があります。水底が見えないところは入らないようにしましょう。
- ・ ごみは必ず持ち帰りましょう。

(参考) 川崎市：かわであそぶときのちゅうい

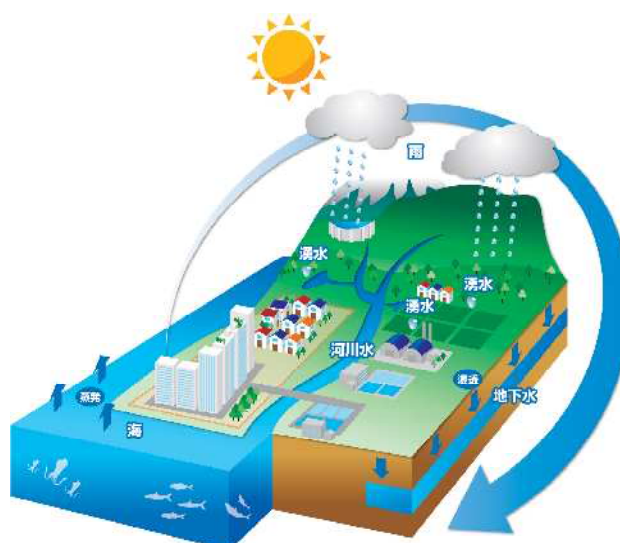
<https://www.city.kawasaki.jp/530/page/0000018712.html>



【コラム：川はどこからきてどこへ行くのか】

川は一滴の雨からはじまっています。山に降った雨が、地面の下に浸透したり、地表を流れて、やがて川をつくります。途中、川から私たちが飲むための水や農作物、工場に使う水をもらいます。飲むための水は浄水場できれいにします。私たちが手洗いや台所、トイレなどで使った水は、主に下水管をとおり、入江崎水処理センターなど4カ所の下水処理場できれいにして、川や海に戻します。

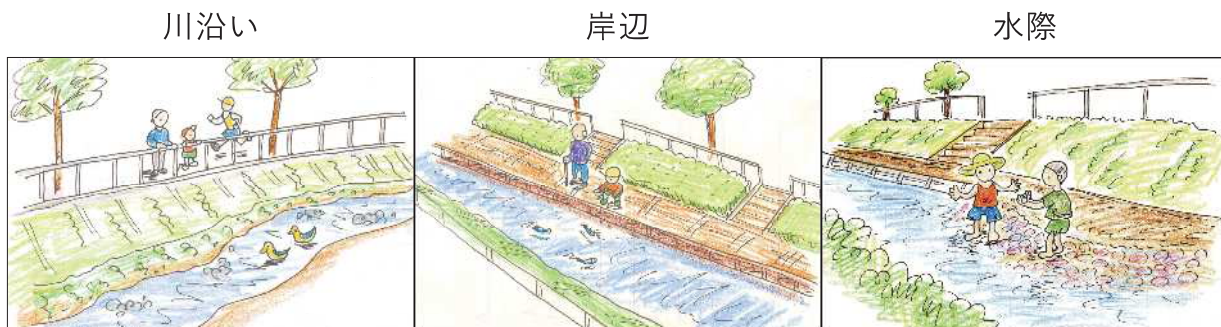
そして、海から蒸発した水蒸気が雲となり、雨となって再び山に降り注ぎます。こうして、水は繰り返し循環しているのです。



4.1. 利用のしやすさの調査

川のその場所が安全に利用できるか、どのように利用できるかを調べます。「川沿い」、かわぞ「水際」を順番に確認し、どこまで川に近づけるか、どこで遊ぶことができるかみてみましょう。

調査した結果は、「調査結果記録ノート」に書いてください。



【利用のイメージ】

川は自然に親しむことのできる貴重な場所ですが、事故がおこりやすい場所でもあります。子どもなど、水辺の利用になれていない方はまず危険な場所を把握することが大事です。例え浅い川でも、足が川底の石に引っかかれば溺れてしまうこともあります。危険なポイントを理解することは、大きな川などで遊ぶ時にも役立ちます。

(1) 川沿い

矢上川の下流などの大きな川には、土が盛られた堤防上もに設けられた通路があり、散策しやすくなっています。

一方、住宅地じゅうたくちの中の小さな川は、防災のため道路よりかなり低い場所を流れるように作られていることが多く、水面を見下ろしたり、川沿いの緑を楽しんだりすることができます。

ア 見るポイント

①川に沿った歩道があるか

→左や中央の写真の様に川沿いに歩ける場所(歩道)があれば「ある(1点)」、右の写真の様に歩ける場所(歩道)がなければ「ない(0点)」に○を付けましょう。



(2) 岸辺

岸辺とは、川沿いの道路と川の間にある広場や遊歩道のような場所のことです。道路と川の間がコンクリート護岸の高い壁になっていて、岸辺がない場所もあります。

- ・注：多摩川などの大きな川では、河原があり、岸辺と水際は一体となっています。一方、川崎市内を流れる都市河川では、川の水には触れられない場所でも、川の近くを歩けるような整備がされているところもあります（右写真）。このため、本調査では岸辺と水際を区別しています。



ア 見るポイント

①岸辺におりられるか

→左や中央の写真の様に岸辺があれば「ある(1点)」、右の写真の様に岸辺がなければ「ない(0点)」に○を付けましょう。



②急な雨で川の水が増えたときに逃げられるか

→岸辺から、堤防などの高い所ていぼうに移動しやすいかどうかを確かめ、すぐに上がることができれば「できる(1点)」、下の写真のようにすぐに上がれる場所がなかったり、上りにくかったら「できない(0点)」に○を付けましょう。



【岸辺のある川：道路上にすぐ上がる場所がない】

- ・注：実際は、川沿いから岸辺そに下りられる場合は、安全な場所にすぐあがることのできる場合がほとんどと考えられます。一方で、おりる場所がか一か所しかなく、いざというときにすぐ安全な場所に上がれない場所等もあるでしょう。安全という視点で遊び場を見てほしいという考えから、この項目を設定しています。

イ 考えてみよう：逃げやすさってなんだろう？

低いところから高いところに急いで上がるのは大変です。逃げるときに上がる場所は階段なのか坂なのか、コンクリートなのか土なのか、傾斜は急なのか緩いのか、距離は近いのか遠いのかなど、様々な視点からチェックし、逃げやすさについて考えてみましょう。

(3) 水際（川の水のすぐそば）

水際とは、岸辺から水面までが近く、水に触れることのできる場所のことです。足をつけられるような場所もあります。



【川の水際】

見るポイント

①水にふれられるか

（岸辺と水面の間に段差がある場合）

→メジャーなどを使って、岸辺から水面までの高さを測ってみましょう。高さが20cmより小さければ、「できる（1点）」に○を、下の写真のように20cm以上ある場合は「できない（0点）」に○を付けましょう。



【岸辺（遊歩道）と水面に20cm以上の段差がある場所】

(岸辺と水面の間に段差がない場合)

→下のように階段などが整備されていて、岸辺から水面まで近づけるようになって
いる場合は「できる (1点)」に○を付けましょう。



【水に近づけるように整備された護岸】 【水に近づけるように整備された階段】

②急な雨で川の水が増えたときに逃げられるか

→水際から、堤防などの高い所に移動しやすいかどうかを確かめて、すぐに上が
ることができれば「できる (1点)」、上がりにくければ「できない (0点)」に
○を付けましょう。

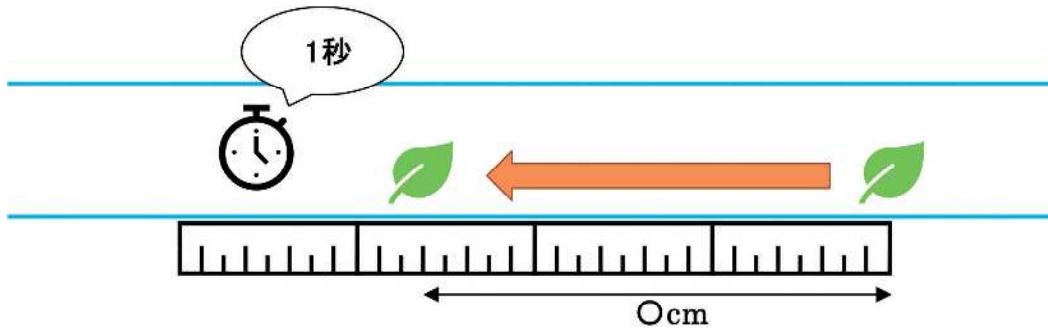
③川の底にふんだら危ないものがないか

→川の底を見た時に、ガラスのかけらや空き缶などの危ないものがないければ「な
い (1点)」に、危ないものがあれば「ある (0点)」に○を付けましょう。
→深かったり暗かったりして底が見えない場合は、「ある (0点)」に○を付けましょう。

④水の深さ、流れの速さ

→メジャーなどを使って、川の深さを測ってみましょう。深さが20cmよりも小さけ
れば「ない (1点)」に、大きければ「ある (0点)」に○を付けましょう。
→川の深さが20cmより浅くても、水の流れが速い場所は危険です。そのような
場所があれば、「ある (0点)」に○を付けましょう。

- ・「流れが速い」は、流速30 cm/秒以上の場合を想定しています。時間がある場合は、流速を測ってみてください。流速とは水の流れる速さのことで、流速30 cm/秒とは、1秒で水が30 cm移動する場合のことです。葉っぱなどを水面に落として、1秒に30 cm流れれば流速30 cmです。



イ 考えてみよう：川が急に増水する理由は？

人が多く住む大きな都市には、雨が降るとあっという間に増水する川があります。何が原因なのでしょう。

川崎市は、地面がアスファルトやコンクリートで覆われているところが多く、緑地の場合と比べて雨が地面にしみこみにくいため、雨が降ると短時間で川へ流れ込みます。

また、最近はおんだんかのため、夏に短時間で大量の雨が降ること（ゲリラ豪雨）が多く、このような大雨も急な増水の原因となっています。

水辺で安全に遊ぶために、なぜ増水するのか考えてみましょう。

4.2. 快適さの調査

川のその場所をどのように感じるかを調べます。調査項目は「におい」、「水のとう明さ」、「ごみの多さ」、「川の風景」の4つです。

この調査では、自分が川の環境を良いと感じたか、悪いと感じたかを素直に記録してください。感じ方は人によって違います。評価の目安はありますが、他の人の評価とあわせなくても大丈夫です。自分がどう感じるかを考えてみてください。

(1) におい

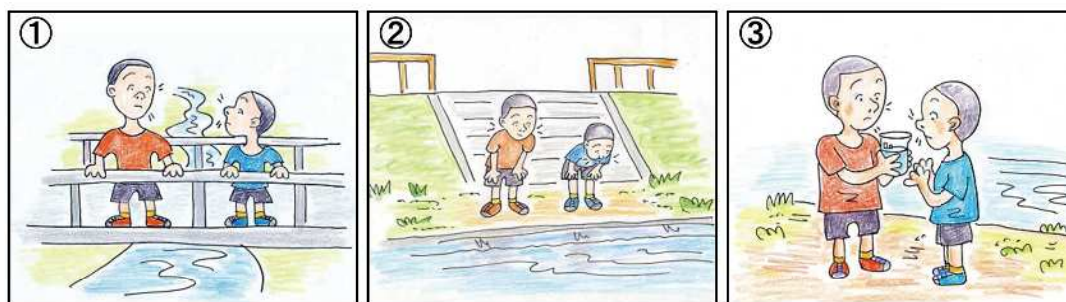
川の水はどんなにおいでしょうか。かぐ場所によってにおいは変わるでしょうか。

ア 調査方法

まず川沿いの道路でにおいをかぎ(①)、その後に川のそば(②)に近づいてにおいをかいでください。

川の水に安全に近づける場合は、コップやビーカーなどでそれをくみ、鼻を近づけてにおいをかいでください(③)。

調査の流れ	結果	点数
①川沿いの道路でにおいをかぐ	いやなにおいがする	0点
	いやなにおいがしない	1点
②川のそばでにおいをかぐ	いやなにおいがする	1点
	いやなにおいがしない	2点
③川の水をくみ、水に鼻を近づけてにおいをかぐ	いやなにおいがする	2点
	いやなにおいがしない	3点



イ 注意点

- ・においは風に流されてしまうので、風の無いときにかいでください。
- ・川の水をコップ等にくむときは、身を乗り出してはいけません。手が届かない場合は、小さなバケツなどにひもを結んで水面に落とし、水をくみます。水をくむときは大人と一緒にやりましょう。また、うっかりコップやバケツを落としても、無理にひろわないようにしましょう。



ウ 考えてみよう：においはどこから？

水がにおう場合は、何が原因なのでしょう。

川のいやなにおいには、卵のくさったようなにおいや下水臭、かび臭、金属臭など色々な種類があります。下水の放流水や工場の排水など、水自体がにおう場合のほか、川の底にたまったヘドロや水草などがくさってにおいのもととなっている場合もあります。川やその周りを観察して、においの原因を考えてみましょう。

(2) 水の透明さ

川の水はすきとおっているでしょうか。

ア 調査方法

川の底が見えるか確認しましょう。水が透明な場合は、川の底がはっきり見えます。川が深かったり暗かったりして底が見えない場合は、1点にしてください。

水の透明さを調べるときの参考写真



※「高津区ふるさとアーカイブ」より引用

【0点】

川の底が見えない、油や洗剤の泡がある



【1点】川の底が見えない

(深くて底が見えない場合も1点)



【2点】川の底（石やすな、水草など）がぼんやり見える



【3点】川の底（石やすな、水草など）がはっきり見える

イ 考えてみよう：透明でない理由は何だろう？

水がにごっていて透明ではない場合は、土や砂、藻や植物プランクトンなどいくつかの原因があります。にごりの状況や色をよく見て、どうしてそうなっているのか考えてみましょう。

【コラム：透明さの測り方】

国や市などの調査では、川の透明さをはかるときに透視度という指標を使います。透視度とは、水がどれだけ透明なのかを表すものです。

透視度を測る『透視度計』は、ペットボトルなど家にあるものでも手作りできます。

参考：(国土交通省北海道開発局防災課水防災教育用資料 実験素材集)

<https://www.hkd.mlit.go.jp/ky/jg/bousai/PDF/jikken/sozai19.pdf>



【コラム：川崎の水のきれいさは】

川の水のきれいさをはかるには、私たちの感覚以外に、水質について国がさだめた基準があります。飲み水や、生きものに適した水質となっているかの基準で、“環境基準”とといいます。

代表的な基準としては、水の中の汚れ（有機物）をはかるBOD（生物化学的酸素要求量：微生物が有機物を分解するために使った酸素の量を表す）があります。

川崎市では毎月、決められた場所で川の水を調査しており、市のホームページで結果を見ることができます。近所の川の水質について、ぜひ調べてみてください。

参照：「川崎市 月間水質測定結果（河川・海域）平成19年度～最新」

(<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-5-1-1-5-0-0-0-0.html>)



(3) ごみの多さ

川の周りにはどれくらいごみが落ちているでしょうか。

ア 調査方法

調査場所の周りのごみを数えましょう。ごみを^{さが}探し出す調査ではありません。
調査する場所を見^{わた}渡して、見えたごみ(自然に目に入ったごみ)を数えてください。

ごみの多さを調べるときの参考写真	
	
【0点】大きなごみ(自転車など)が二つ以上ある。または、手のひらより大きいごみが20個より多い	【1点】大きなごみ(自転車など)がある。または、手のひらより大きいごみが10個～20個くらいある
	
【2点】手のひらより大きいごみがあるが、10個より少ない	【3点】ごみがほとんどない(少しあるが、気にならない)

イ 考えてみよう：ごみはどこからやってきた？

空き缶やペットボトル、ビニール袋など、川に落ちているごみはそこに捨てられたものでしょうか、それともどこかから飛んできたものでしょうか。遊んだ後にごみを置いていくようなマナーの悪い人もいますが、近くのお店のごみ箱や、道路におちているごみなど、他の場所におちたごみが風で飛ばされてくることも多いのです。

また、とてもきれいでごみが見当たらない場所もあります。そのような地域にはごみをひろって川をきれいにしている地元の人達があります。近所で活動があるときは参加してみましよう。



【マジックハンドを使って川の中の空きかんを拾っている様子】



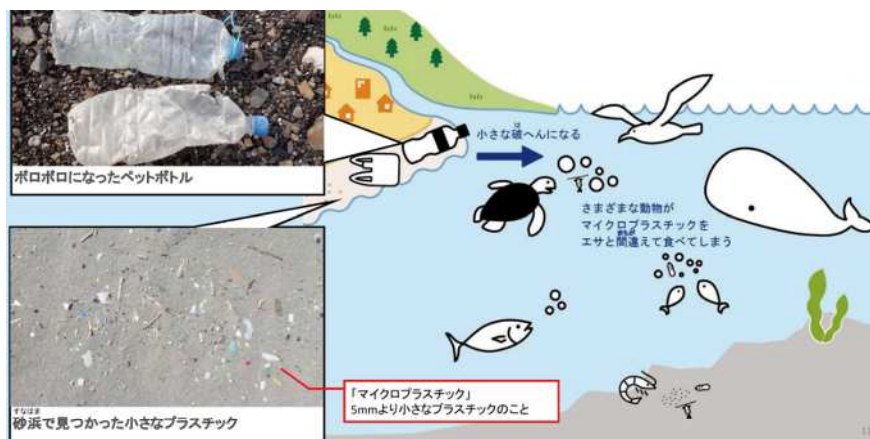
【岸辺のごみをひろっている様子】

【コラム：ごみはどこへいくのか】

川に捨てられたごみなどは、やがて海に流れ着きます。プラスチックは木の枝や葉っぱのようにくさってなくなることはありません。

ペットボトルやお菓子の袋などのプラスチックごみや、それが細かくくだけたマイクロプラスチックと呼ばれるものが世界中の海で見つかり大きな問題となっています。

また海の生きものは袋にからまったり、間違えて食べてしまったりすることがあり、傷ついたり、死んでしまうなど大きな影響をうけています。



出典：「海洋ごみ学習用教材 小中学生用」（環境省）

http://plastics-smart.env.go.jp/files/material/study_elementary_juniorhigh.pdf

(4) 川の風景

川をながめたときに気持ちがいい、遊んでみたいと思えるでしょうか。せせらぎの音なども気にしてみましょう。

ア 調査方法

川の風景を下の表と見比べて、点数を付けてください。参考写真にあてはまるものがなければ、説明文のどれに近いと感じるか考えてみてください。

風景を調べるときの参考写真



【1点】木や草がなく、コンクリートだけの景色。見ていて良い気持ちではない。



【2点】川のほとりはコンクリートでも、草や木などがある景色。見ていて、嫌いやではない。



【3点】木や草などの緑が多い、川の水の量が十分など見ていて気持ちが良い。

イ 考えてみよう：どんな川が素敵だと思う？

素敵な川と言うと、水がきれい、花がさいている、魚がたくさん泳いでいるといった様子が思い浮かびます。調査した場所を素敵な川にするためには、どんなことをすればよいか考えてみましょう。

5 調査が終わったら

5.1. 調査結果の評価

調査結果記録ノートの内容を、「総合評価ノート」に記入します。

(1) 利用のしやすさの区分

「利用のしやすさの調査」の得点を合計し、どのように利用できるかをローマ数字のⅠ～Ⅲで評価します。

調査結果の合計点が0点以下なら「川を利用できない(-)」、1～2点なら「川沿い^そが利用できる(Ⅰ)」、3～6点なら「岸辺が利用できる(Ⅱ)」、7点なら「水際^そが利用できる(Ⅲ)」となります。

利用のしやすさの調査結果		
合計点	評価	区分
0点以下	川を利用できない	-
1～2点	川沿い ^そ が利用できる (散歩、ランニングなどができる)	Ⅰ
3～6点	岸辺が利用できる 休憩 ^{きゅうけい} や、川を覗いて生きもの観察などができる)	Ⅱ
7点	水際 ^そ が利用できる (水にさわる、生きものをとるなどの水遊びなどができる)	Ⅲ

(2) 快適さのランク

「快適さの調査」の得点を合計し、気持ちよく利用できる場所かどうかを、☆1つから☆3つで評価します。

調査結果の合計点が3点以下なら「利用したいと思わない(-)」、4～5点なら「利用できる(☆)」、6～9点なら「気持ちよく利用できる(☆☆)」、10～12点なら「とても気持ちよくできる(☆☆☆)」となります。

快適さの調査結果		
合計点	評価	ランク
3点以下	利用したいと思わない (行きたくない)	-
4～5点	利用できる (何かのついでに行ってもいいと思う)	☆
6～9点	気持ちよく利用できる たまに行きたい(休憩 ^{きゅうけい} したり、遊んだりしたい)と思う)	☆☆
10～12点	とても気持ちよく利用できる 何度も行きたい(休憩 ^{きゅうけい} したい、遊んだりしたい)と思う)	☆☆☆

(3) 総合評価の方法

「利用のしやすさの区分」と「快適さのランク」を組み合わせ、調査した川を総合的に評価します。

下の総合評価の表で、「利用のしやすさの区分」と「快適さのランク」両方にあてはまる場所をみてください。そこに書いてある評価が、その場所の総合的な評価になります。

総合評価の結果は、「総合評価ノート」に書いてください。

例：利用のしやすさの区分がⅡ、快適さのランクが☆☆のとき、総合評価は「岸辺が気持ちよく利用できる ☆☆」となります。

【総合評価】

		快適さのランク		
		☆ 利用できる	☆☆ 気持ちよく 利用できる	☆☆☆ とても気持ちよく 利用できる
利用 の し や す さ の 区 分	Ⅰ 「川 ^そ 沿い」が利用できる (散歩、ランニングなどが できる)	川沿いが利用できる ☆ Ⅰ	川沿いが気持ちよく 利用できる ☆☆ Ⅰ Ⅰ	川沿いがとても気持ちよく 利用できる ☆☆☆ Ⅰ Ⅰ Ⅰ
	Ⅱ 「岸 ^{きゆうけい} 辺」が利用できる (休憩したり川をのぞいて 生きもの観察などができ る)	岸辺が利用できる ☆ Ⅱ	岸辺が気持ちよく利 用できる ☆☆ Ⅱ Ⅱ	岸辺がとても気持ちよく 利用できる ☆☆☆ Ⅱ Ⅱ Ⅱ
	Ⅲ 「水 ^{みづ} 際」が利用できる (水にさわったり、生きもの をとるなど水遊びなどが できる)	水際が利用できる ☆ Ⅲ	水際が気持ちよく利 用できる ☆☆ Ⅲ Ⅲ	水際がとても気持ちよく 利用できる ☆☆☆ Ⅲ Ⅲ Ⅲ

※利用のしやすさが「－：利用できない」、快適さが「－：利用したいと思わない」のどちらかの場合は、「利用できる川ではない」という評価となります。

5.2. 調査結果をみんなに知らせる

総合評価の結果は、「総合評価ノート」に書いてください。

また、みなさんで評価した結果をまとめた「(送付用) 総合評価ノート」を市に送ってください。結果を集計し、市のホームページにわかりやすく掲載します。

「知らなかったけれど、とても気持ちの良い場所だった」または「思ったよりごみが多かった。どうにかしたほうがよい」など、市民のみなさんにおすすめしたいことや知らせたいことがあれば、一緒に書いて送ってください。

【送り先】

川崎市^{かんきょうきょく}環境局^{たいさくぶ}環境対策部^{きょうそう}地域環境共創課

• Email

30kyoso@city.kawasaki.jp

• FAX

044-200-3922

【送る方法】

メール：総合評価ノートをPDF，またはwordでメールに添付^{てんぷ}。

^{しょうさい}詳細は、市のホームページ「水辺の親しみやすさ調査について」で説明しています。

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-5-12-0-0-0-0-0-0.html>



総合評価ノートの送り方は、調査した方全員分でも、調査したクラス、あるいは団体ごとにまとめて集計したものでも、どちらでもかまいません。

送付いただいたメールアドレスなどの個人情報、川崎市個人情報保護条例に基づき、収集した利用目的以外の目的で利用することはいたしません。

6 専門的な(難しい)評価

「水辺の親しみやすさ」を調査するにあたっては、人が利用する視点だけでなく、そこを生息場所としている生きものや、水質の視点からの考え方も大切です。興味がある場合は、次の視点での評価にもチャレンジしてみてください。

6.1. 水の生きものの視点

(1) 魚類での評価

水生生物がその水辺にすみやすいかどうかは、水質や場所の状況（水の深さや速さ、底が泥か砂か、卵を産むところがあるか）などに影響を受けます。生息している魚の種類を調べることで、その場所が魚にとって良い環境かどうかわかります。

魚類での評価は、その川で「外来種のみが確認」された場合はI、「在来種が確認(指標種以外の種類)」がII、「指標種が確認」がIIIとなります。

指標種は、その川が良い水質の時に生息できる種類です。川の広さや海に近いかによって定める種類が変わるため、指標種は川ごとに設定しています。(具体的な種名は次ページ「表 各河川の指標種」をご覧ください)

一般の方が川に入って魚を調査することは難しいため、市が調査している結果を参考にしてください。生きものの調査結果は以下のホームページで公開しています。

参考：川崎市ホームページ：市内の環境対策 / 水環境情報 / 水質年報
<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-5-7-0-0-0-0-0-0-0.html>

※この中の「第1章 公共用水域の水質状況 VII 公共用水域水質測定関連資料
 2 河川生物調査結果 3 親水施設調査結果」



表 魚類での評価

視点	評価の基準	項目の評価※1
生きものの生息・生育状況(魚類)	外来種※2のみを確認	I：該当河川として 良い環境ではない
	魚類の在来種※3を確認(指標種を除く)	II：該当河川として 普通環境である
	魚類の指標種を確認	III：該当河川として 良い環境である

※1：この指標は評価対象の川の環境が、その川の理想の姿と比較して現在は良いか悪いかで評価します。このため、同じ種類の魚が生息していても、川によって評価が変わります。

※2：外来種とは、本来その生きものが生息していない地域に人によって持ち込まれた種です。

※3：在来種とは、もともと川崎市の川に住んでいる種類です。

(もっと詳しく：川崎市ホームページ：外来生物について)

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-6-8-0-0-0-0-0-0-0.html>



表 各河川の指標種

河川の分類	河川名	指標種名	在来魚種数※
①：人工的な川 基本的に3面張りの典型的な都市河川であり、環境の変化に乏しい (在来種の出現数1～2種)	片平川	ドジョウ、メダカ類	2種
	真福寺川	ドジョウ、メダカ類	1種
	有馬川	ドジョウ、メダカ類	2種
②：生きものの生息場として標準の環境 石礫底や抽水植物帯など環境が比較的多様である (在来種の出現数5～10種程度、「水質がきれい」に該当する種が出現している。)	五反田川	ドジョウ、アユ	7種
	渋川	カマツカ、ドジョウ、アユ	8種
	二ヶ領用水 (円筒分水下流)	カマツカ、ドジョウ、メダカ類	8種
③：生きものの生息場として望ましい環境 石礫底や抽水植物帯など環境が多様であり、水質の安定した流入(湧水など)がある。 (在来種の出現数が10種程度以上、「水質が非常にきれい」に該当する種が出現している)	平瀬川	ホトケドジョウ	9種
	麻生川	アブラハヤ	7種
	二ヶ領本川	アブラハヤ	10種
	二ヶ領用水 (宿河原線)	アブラハヤ	11種
	三沢川	アブラハヤ、ホトケドジョウ、シマドジョウ属	16種
IV：その他 感潮域、汽水域などに位置する	矢上川	ビリンゴ、マハゼ	10種

※在来種とはもともとその地域に住んでいる生きもののことです。在来魚種の種数が多いほど、多様な魚類が生息できる良い環境と言えます。

(2) その他の生きものでの評価（補助指標）

魚類の調査をすることは、専門家でないとなかなか難しいため、河川の環境がある程度良いことの指標となる種（鳥やカニ）をいくつか選びました。これらは、比較的に見分けやすく、見つけやすい種です。調査の際に探してみてください。

表 その他の生きものでの評価

		種類	評価の基準※1
鳥類	サギ類（コサギ、アオサギ、ダイサギ）	魚類・甲殻類等を捕食することから、餌となる生きものが市内の河川に生息している指標となります。	Ⅱ：普通の環境
	カワセミ	魚類・甲殻類を捕食すること、また行動範囲がサギ類より狭いため、確認された場合は周辺に営巣している可能性が高く、市内の河川が良い環境であるという指標となります。	Ⅲ：良い環境
甲殻類・巻貝	カワニナ	淡水巻貝の代表的な種で、ホタル類の幼虫の餌となります。比較的きれいな水質に生息するため水質の指標となります。	Ⅱ：普通の環境
	モクズガニ	海で生まれて川で育つカニであり、海と川が分断されていないという指標となります。岩などの隠れ場がある場所に生息するため、多様な環境があるという指標にもなります。ただし、水質はそれほどきれいでも生息できます。	Ⅱ：普通の環境
	サワガニ	湧水や河川の上流域のきれいな水に生息するため、川が良い環境であるという指標となります。	Ⅲ：良い環境

6.2. 水質の視点（指標：ふん便性大腸菌群数）

市の川での遊び方として、泳ぐことは勧めていません。ただし、水遊びができる川もあるため、目安としてふん便性大腸菌群数を設定しました。これは、水の中に人間を含む動物のふんがどれくらい混じっているかを表します。水浴場で泳げるかどうかを判断する国の基準の一つです。

一般の方がふん便性大腸菌群数を測ることは難しいため、評価する場合は市の調査結果を参考にしてください。

表 水質（ふん便性大腸菌群数）の評価

視点	項目	項目の評価
水質	ふん便性大腸菌群数	1,000 個 /100mL より多い （「水浴場水質判定基準」（環境省）で「水浴不可」）
		1,000 個 /100mL 以下 （「水浴場水質判定基準」（環境省）で「水浴可」）

調査結果は市のホームページ「水辺の親しみやすさ調査について」で確認できます。

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-5-12-0-0-0-0-0-0-0.html>



【コラム：川に住む生きものたち】

川崎市内の川にはどれ位の生きものがすんでいるのでしょうか。

定期的に行われている生きもの調査の結果を見てみましょう。

きれいな川にすむスミウキゴリやホトケドジョウから、きれいではなくてもすむことができるコイなどの魚や、カワニナやオニヤンマなどの魚やカニたちのエサになる貝や昆虫の幼虫など、色々な生きものが見つかっています。

川底の石や水草にくっついて生きている小さな生きものたちをエサにして、より大きな生きものは生きていくことができます。

色々な種類の生きものたちがいることで、川全体が豊かになるのです。

なお、アメリカザリガニなどの外来種や、ヒメダカやグッピーなど、ペットとして飼われていたはずの生きものも見つかっています。このような生きものは、本来川崎の川には生息していない生きもので、もともと生息している生きものに良くない影響^{えいきょう}をあたえます。川には飼っていた生きものを放さないようにしましょう。

市のホームページでは、生きもの情報を、「かわさき水辺の生きもの」や、「水辺の生きもの写真館」として公開しています。

<https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-3-6-6-0-0-0-0-0-0.html>

<https://www.city.kawasaki.jp/300/page/0000062887.html>



アユ科



◀15~30cm▶

アユ

石に付着している藻類を食べる。なわばりをもつ習性がある。多摩川でも毎年放流されている。

アメリカザリガニ科



アメリカザリガニ

体は暗褐色で、第1~3脚にハサミをもつ。第1脚は特に強力で多くのトグがある。1930年にウシガエルのえさとして、アメリカから移植された。

ドジョウ科



◀12cm▶

ドジョウ

口ひげは5対で、3対は上唇にある。泥の中の有機物や小動物をえさとする。池や沼、水田や川などの底にすむ。



殻頂は欠けていることがある

縦長な巻貝



触覚は短い

胸に足6本

体の表面にたくさんの毛

体は円筒形

尾はトグ状

ハゼ科



◀9cm▶

スミウキゴリ

体に6~7個の黒っぽい箱状の模様があり、尾びれの付け根に黒いはん点がある。主に汽水域から下流域に生息する。
★県内準絶滅危惧種

カワニナ
◀20~30mm▶

ホタルのエサになる貝。流れのゆるやかなところの石や泥底に生息する。

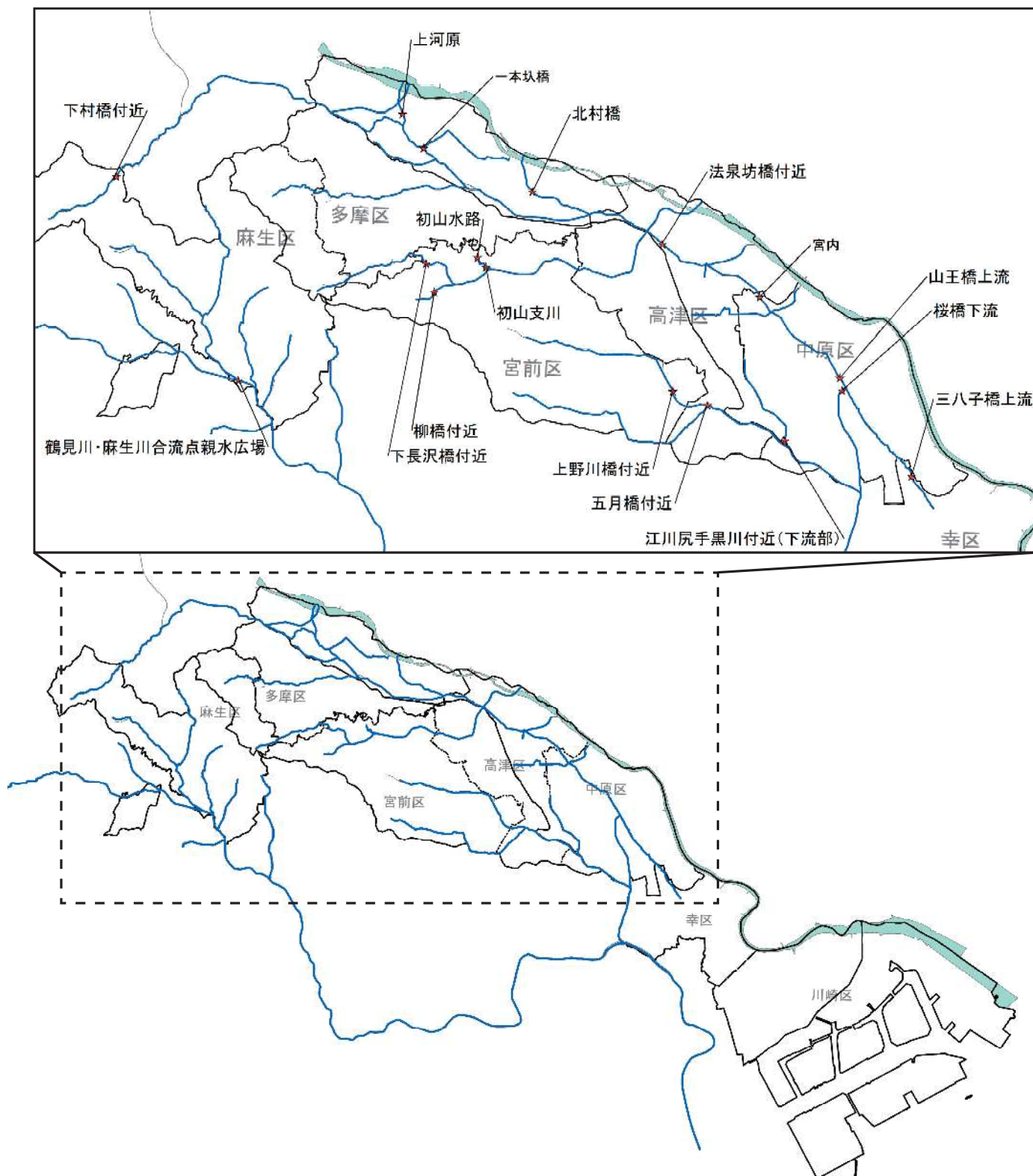
オニヤンマ(幼虫)
◀40~50mm▶

砂泥底や落ち葉の下に潜っている。大型なヤゴ。

出典:「かわさき水辺の生きもの—川と海に出かけてみよう—第7版」(2019年3月、川崎市)より作成

【「水辺の親しみやすさ調査」基準点】

川崎市では、水辺に親しみやすく、みなさんにおすすめしたい場所を、「水辺の親しみやすさ調査」の基準点として設定しています。



7 水辺をもっと親しみやすくするために

身近な水辺を調査した結果はいかがでしたか。

水辺の良さや、そこでできることを発見したり、もっと^{すてき}素敵な場所にするためにはどうすれば良いか考えたりするきっかけになりましたか？

水辺をもっと親しみやすくするため、みなさんがすぐに行動できることは何か、まわりの人達と^{いっしょ}一緒に考え、少しずつでもよいのでやってみてください。

毎日の暮らしの中でできること
【水を汚さないようにしよう】 <ul style="list-style-type: none"> ・ 食器の汚れは紙などでふいてから洗う ・ みそ汁、スープ等はなるべく飲み切って流さないようにする ・ 洗剤は使いすぎないようにする（洗剤の容器の裏にちょうど良い量が書いてあります）
【ごみが川に集まらないようにする】 <ul style="list-style-type: none"> ・ ごみは家までもちかえり、ごみ箱にすてる ・ 落としたごみはきちんとひろう
川や水環境を守る活動をする
<ul style="list-style-type: none"> ・ ごみひろい活動に参加する ・ 川や池の生きものを守る活動に参加する ・ 自分達で川を守る活動をはじめ（子どもは大人と一緒にやるようにしてください）

<水環境を守る活動への参加>

市内では、色々な人たちが水環境を守る活動をしています。その内容はさまざま、川や湧水地などの周辺のごみひろいや、生きものの調査、生きものを守る活動などです。ホームページなどで活動の紹介や、参加者の募集をしていることもありますので、興味のある人は近くの川で活動をしているか探してみてください。

【コラム：二ヶ領用水一斉清掃】

市内を流れる二ヶ領用水では、毎年夏に1回、二ヶ領用水沿いに設けられた集合場所に集まり、周囲を歩きながらごみをひろう「二ヶ領用水一斉清掃」が行われています。この活動はかわさき市民公益活動助成金事業の一つで、二ヶ領用水クリーンアップ協議会が主催しています。

出典：二ヶ領用水せせらぎ館 HP

(<https://www.seseragikan.com/cleanup/index.html>)



「水辺の親しみやすさ」ちょうさけっかきろく 調査結果記録ノート


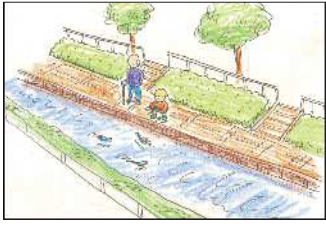


名前・団体・イベント名：

場 所	()	天 気	
日 付	令和 年 月 日 ()	時 間	時 分
(参考)	水温 度 気温 度		

川崎市の川には、散歩したり遊びたいと思えるような場所がどれくらいあるでしょうか。気持ちのよい川か、どんなふう^{してん}に遊べる川かの視点から調査してみましょう。

【利用のしやすさの視点】

散歩したり遊んだりできる川かを調べます。「ある、ない（できる、できない）」のあてはまる方に○をつけてください。川沿いの道路→^そ岸辺→川の水際と、川に近づきながら調べてみましょう。

チェックする場所	見るポイント	確認すること	結果	
1. 川沿い 	川に沿った歩道があるか	川沿いに歩ける場所（歩道）がある	ある (1点)	ない (0点)
2. 岸辺 	岸辺におりられるか	道路と川の間 ^{かいだん} にさくやフェンスがなく、階段などから岸辺におりることができる	できる (1点)	できない (0点)
	急な雨で川の水が増えたときに逃げられるか	増水したときに岸辺より高い安全な場所へすぐ上がることができる	できる (1点)	できない (0点)
3. 水際 (川の水のすぐそば) 	水にふれられるか	岸辺から川の水面までの高さが20cmくらいであり、水にさわることができる または岸辺に階段や川の水に近づける場所（右の写真のような場所）があり、足を川につけたりできる。 	できる (1点)	できない (0点)
	急な雨で川の水が増えたときに逃げられるか	増水したときに川より高い安全な場所へすぐ上がることができる	できる (1点)	できない (0点)
	川の底にふんだら ^{あぶ} 危ないものがないか	川の底にガラスのかけらや空き缶など危ないものがない ※深くて底が見えず、評価ができない場合は0点にしてください	ない (1点)	ある (0点)
	水の深さ、流れの速さ	水の深さが20cm（すねの辺り）より深い、または、水の流れが速い場所がある	ない (1点)	ある (0点)

利用のしやすさの合計： _____ 点

【快適さ（気持ちのよさ）の視点^{してん}】

川を気持ちよく利用できるかどうか評価します。「調査結果」に当てはまる点を点数のところに記入してください。

こ う 項 目	調査結果と点				点数
	0点	1点	2点	3点	
におい	川沿いの道路で いやなにおいがする	川沿いの道路で、 いやなにおいが しない	川のそばで、いやな においがしない	川の水に鼻を 近づけてもいやな においがしない	点
水の透明さ ^{どうめい} ※深くて底が 見えず、評価 ができない場 合は1点にし てください	川の底がみえない、 油や洗ざいの泡 ^{あわ} がある	川の底がみえない	川の底（石やすな、 水草など）が ぼんやり見える	川の底（石やすな、 水草など）が はっきり見える	点
ごみの多さ	大きなごみ（自転車な ど）が二つ以上 ある。または、手のひ らより大きいごみが20 個より多い	大きなごみ（自転車な ど）がある または、手のひら より大きいごみが10～ 20個くらいある	手のひらより大きいご みがあるが、 10個より少ない	ごみがほとんどない （少しあるが、気に ならない）	点
川の風景 ※下の3つの 写真を 参考にしてく ださい		木や草がなく、コンク リートだけの景色。 見ていると良い気持ちで はない。 ※1点の写真を 参考にしてくだ さい	川のほとりはコンクリ ートでも、草や木などが ある景色。 見ていると、嫌 ^{いや} ではない。 ※2点の写真を 参考にしてくだ さい	木や草などの緑が多 い、川の水が十分ある など見ていると 気持ちがよい ※3点の写真を 参考にしてくだ さい	点

1点の写真



2点の写真



3点の写真



快適さ（気持ちよさ）の合計 点

「水辺の親しみやすさ」総合評価ノート

「快適さ」と「利用のしやすさ」の調査結果から、「水辺の親しみやすさ」を総合的に評価します。

- ①：「利用のしやすさ」の区分を、調査結果の合計点によって、「I、II、III」で評価します。
- ②：「快適さ」のランクを、調査結果の合計点によって、「☆、☆☆、☆☆☆」で評価します。
- ③：①、②をあわせて、「この川がどれくらい快適な場所で、どういう利用ができるのか」を評価します。

①、②：それぞれの調査結果の合計点に対応する区分に○をつけてください

合計点	評価	区分
0点以下	川を利用できない	-
1～2点	かわぞ 川沿いが利用できる (散歩、ランニングなどができる)	I
3～6点	岸辺が利用できる きゅうけい (休憩や、川をのぞいて生きもの 観察などができる)	II
7点	水際が利用できる (水にさわる、生きものをとるなど の水遊びなどができる)	III

合計点	評価	ランク
3点以下	利用したいと思わない (行きたくない)	-
4～5点	利用できる (何かのついでに行ってもいいと 思う)	☆
6～9点	気持ちよく利用できる (たまに行きたい(休憩したり、 遊んだりしたい)と思う)	☆☆
10～12点	とても気持ちよく利用できる (何度も行きたい(休憩したい、 遊んだりしたい)と思う)	☆☆☆

③：総合評価の結果を記入例の通りに書いてください。(※①、②をあわせた結果を記入してください。)

総合評価結果	☆☆☆	総合評価の記入例 (利用のしやすさII、快適さ☆2つのとき)
		☆☆ II II

総合評価結果		快適さのランク		
		☆ 利用できる	☆☆ 気持ちよく 利用できる	☆☆☆ とても気持ちよく 利用できる
利用のしやすさの区分	I：「川沿い」が利用できる (散歩、ランニングなどができる)	川沿いが利用できる ☆ I	川沿いが気持ちよく利用 できる ☆ ☆ I I	川沿いがとても気持ちよく 利用できる ☆ ☆ ☆ I I I
	II：「岸辺」が利用できる (休憩したり川をのぞいて生きもの の観察などができる)	岸辺が利用できる ☆ II	岸辺が気持ちよく利用 できる ☆ ☆ II II	岸辺がとても気持ちよく 利用できる ☆ ☆ ☆ II II II
	III：「水際」が利用できる (水にさわったり、生きものをとる など水遊びなどができる)	水際が利用できる ☆ III	水際が気持ちよく利用 できる ☆ ☆ III III	水際がとても気持ちよく 利用できる ☆ ☆ ☆ III III III

せんもんてき
[専門的な評価] (興味のある方はチャレンジしてください。)

魚類	その他の生きもの
I：良くない	
II：普通 ふつう	II：普通
III：良い	III：良い

1,000 個 / 100mL より多い
1,000 個 / 100mL 以下

※あてはまる区分に○をつけてください。

(市送付用)「水辺の親しみやすさ」総合評価ノート

名前・団体・イベント名：

名前	(※団体名等、HPに掲載される場合の名前) <small style="float: right;">けいさい</small>
日付	令和 年 月 日 ()
参加人数	(※団体での評価結果をまとめて送る場合)

場所の名前		河川名	
利用のしやすさの区分※ ¹	I II III	快適さのランク※ ¹	☆ ☆☆☆ ☆☆☆☆
総合評価結果※ ²		総合評価の記入例 (利用のしやすさII、快適さ☆2のとき) 	

※1：あてはまる区分に○をつけてください。

※2：利用のしやすさの区分と快適さのランクをあわせた結果を記入してください。

<small>せんもんてき</small> 専門的な評価 (より詳しく川を調べる調査です。興味のある方はチャレンジしてください)			
生きもの※ ³	魚類	自分で調査 <input type="checkbox"/> 市の調査を転記 <input type="checkbox"/>	I II III
	その他の生きもの		II III
<small>べんせいだいちょうきんぐんすう</small> ふん便性大腸菌群数	[1,000 個 /100mL より多い]	[1,000 個 /100mL 以下]	

※3：「魚類」か「そのほかの生きもの」の、使った指標に○をつけてください。また、自分で調査したのか、市の調査結果を転記したのかわかるようにしてください。

[この場所のおすすめポイント]

みんなにお知らせしたいおすすめの場所や季節をかいてください。

[この場所の残念ポイント]

残念と思ったことがあれば、その理由をかいて下さい。例：ゴミが多い、水がきたない等)

※「おすすめ」「残念」は書くことがなければ空欄でもけっこうです。
 (調査時の写真等、HPに掲載してよいものがあればお送りください。)



Colors, Future!

川崎市

川崎市環境局環境対策部 環境保全課
地域環境共創課

〒 210-8577 川崎市川崎区宮本町 1 (第 3 庁舎 17 階)

TEL : 044-200-2520

FAX : 044-200-3922

Email : 30hozen@city.kawasaki.jp(調査の問合せ)

30kyoso@city.kawasaki.jp(調査結果の提出)

2021 年 3 月発行

